



つながい

みなみ

発行日 平成29年10月10日



No. 7

どの子にも必ず育てなければならない基本の心

いくらやりたくなくても やらなければならないことを 粘り強くやり遂げようとする心
 いくらやりたくても やってはいけないことを 我慢する心

校長 宮 居 伝

台風の影響で延期となりました運動会でしたが、保護者の皆様のご理解とご支援により、子どもたちの頑張りとともに、無事に終えることができました。急な変更などにも、ご理解をいただきましたことに、心より感謝を申し上げます。ほんとうにありがとうございました。

さて、早いもので今年度も後半を迎える時期となりました。子どもたちは、芸術の秋・スポーツの秋・読書の秋…など、さまざまな取組に励んでいます。

ところで、「滋賀教育（社団法人滋賀県教育会発行・第717号）」という新聞に、次のような投稿が書かれてありました。



5・6年生による組立表現

秘密基地

低学年の子はヒミツが好きである。運動場や校舎の小さな隙間を見つけ、石ころや虫を集める。休み時間が終わると、何もなかったような顔をして教室に戻る。約束は誰にも言わないこと。このルールが守られているうちは楽しい遊びになる。

楽しい遊びになれると、飽きが出る。知恵がつく。ダンゴムシや紙ヒコウキで遊んでいるうちはよかった。が、ダンゴムシがお菓子に変わる。持ち込みのお菓子を食べるという遊びに変わっていく。

明美さんは、秘密基地が好きだった。しかし、お菓子が持ち込まれるようになってから、遊びが面白くなくなった。友達からは、誰にも言ってはダメと口止めされているので、お母さんにも言えないという苦しい日が続いた。

明美さんの変化に気づいたのはお母さんだった。何か言いたそうにお母さんから離れない。そわそわして、今までのような顔が消えている。お母さんは、明美さんの気持ちを落ち着かせ話を聞いた。秘密基地が、楽しい遊びの場所でないことを感じたお母さん。学校を訪ね、担任の先生と相談した。

事情を理解した若い担任の先生は、生活科で秘密基地を設け、遊び方や約束、そして、おかしいと思った時の対応などを指導された。担任を信頼し、指導を任せられた明美さんのお母さんと担任の先生との見事な連携であった。

今、明美さんのお母さんは、方向を間違うと、子どもを迷わせる秘密基地ごっこのような出来事はきつとくる。その日がきても慌てないように、子どもを見守りたいと気を引き締めているという。

この投稿を読んだ時、ある方が言っておられた言葉が浮かんできました。それは、「どの子にも必ず育てなければならない基本の心があるはずだ。基本の心は、『いくらやりたくなくても やらなければならないことを 粘り強くやり遂げようとする心』『いくらやりたくても やってはいけないことを 我慢する心』であると考えます。」というものです。

子どもたちを取り巻く環境は複雑多岐で、さまざまな情報が心の成長を妨げているのではないかとさえ思われることも多々あります。

しかし、ここでしっかりと考えなければならないことは、私たち大人が、子どもたちを取り巻く環境や心の成長を妨げているのではないかと思われることに目を向け、子どもたちの日々の言動や発信（素振り）を敏感に感じ、その場で価値観を説くことではないかなと感じています。

もう少し言えば、子どもの言葉（遣い）や行動、持ち物や友だち関係などを、確かなアンテナで感じとり、確かな言葉かけ（価値観）を、その場で即座にお願いできれば幸いです。例えば、「みんなが持っているから…」という言葉やこれまでの固定的な見方や感じ方からくる言動などを聞かれた時、けっして、他人ごとではなく、これから社会に出るわが子の成長を願っての確かな言葉かけ（価値観）を継続してお願いします。



色別新種目・コーン倒し

